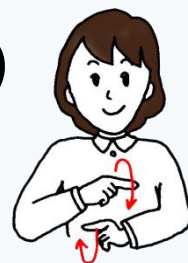


令和6年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課
令和6年11月

はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成27年4月1日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務並びに県民及び事業者の役割を明らかにし、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を行うとともに、手話を使用する者の協力を得て、手話の普及等を推進すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう努めることが求められています。その趣旨に則って、平成28年度から令和2年度の5年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、現在でも継続して各学校で様々な手話の取組が行われております。

本事例集は、毎年5月の「手話の取組強化月間」を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で10集目になります。

昨年5月までは新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動に様々な制約がありましたが、今日では様々な活動がほぼ通常通り行われるようになり、県立高等学校及び県立中等教育学校における手話の普及・啓発が、以前のように着実に進んでいると考えます。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和6年11月

高校教育課

(表紙 金沢総合高等学校 イラスト部 石田菜月・廣野麻緒・山崎陽香)

目次

◆手話のあいさつ.....	1
---------------	---

◆教職員の取組

1 横浜南陵高等学校 職員室、各 HR 教室.....	2
2 大和高等学校 「手話で話してみよう」生徒対象の手話講習講座.....	3

◆授業での取組

1 横須賀高等学校 家庭基礎 多文化共生単元.....	4
2 小田原城北工業高等学校 4 学年電気科 製図.....	5
3 上鶴間高等学校 全授業.....	6
4 秦野曽屋高等学校 3年「社会福祉基礎」手話講座.....	7
5 足柄高等学校 図書室のオリエンテーション授業.....	8
6 綾瀬西高等学校 選択科目「コミュニケーション技術」.....	9

◆特別活動での取組

1 希望ヶ丘高等学校 文化祭.....	10
2 横浜修悠館高等学校 生徒総会.....	11
3 生田高等学校 放課後、LHR.....	12
4 麻生総合高等学校 朝の HR、朝の打合せ.....	13
5 追浜高等学校 生徒総会.....	14
6 西湘高等学校 各クラスの福祉委員によるレクチャーで HR にて手話を学ぶ.....	15
7 相模田名高等学校 福祉委員会.....	16
8 秦野高等学校 朝の SHR・帰りの SHR・LHR・授業の始まりと終わりにて.....	17
9 大和西高等学校 朝の挨拶運動.....	19

◆部活動での取組

1 二俣川看護福祉高等学校 朝の SHR での生徒向け手話講座.....	20
2 藤沢工科高等学校 湘南台駅前地下コンコース.....	21

◆複数の活動での取組

1 金沢総合高等学校 授業、ホームルーム、図書館、廊下掲示にて.....	22
2 住吉高等学校 ①朝または帰りの HR ②図書館.....	23
3 麻生高等学校 ①Google Classroom ②図書館の特集コーナー.....	24
4 海洋科学高等学校 職員会議での手話紹介、生徒による朝のあいさつ運動.....	25
5 二宮高等学校 ①図書館で関連図書の展示、栞の配付 ②体育の授業.....	26

◆その他の取組

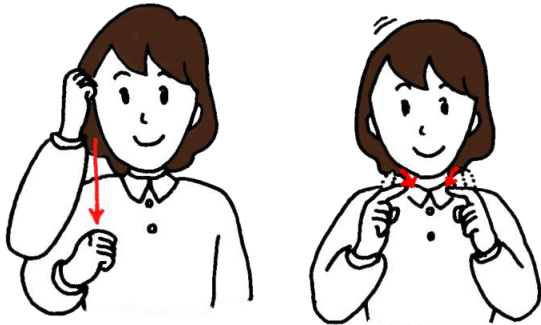
1 霧が丘高等学校 廊下に本の展示スペース.....	27
2 大船高等学校 Classi（校内配信ツール）を利用した配信.....	28
3 茅ヶ崎北陵高等学校 図書委員製作 POP による「手話」と「手話に関する書籍」 の紹介.....	29

◆手話ポスター紹介

横浜立野高等学校、商工高等学校.....	30
霧が丘高等学校、平塚江南高等学校.....	31
深沢高等学校.....	32
茅ヶ崎北陵高等学校.....	32・33

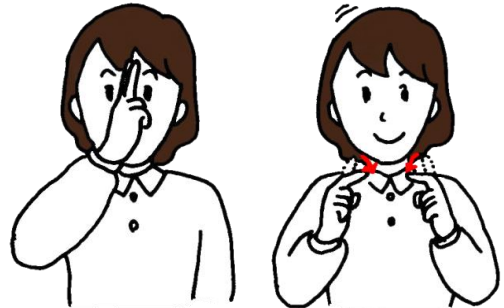
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



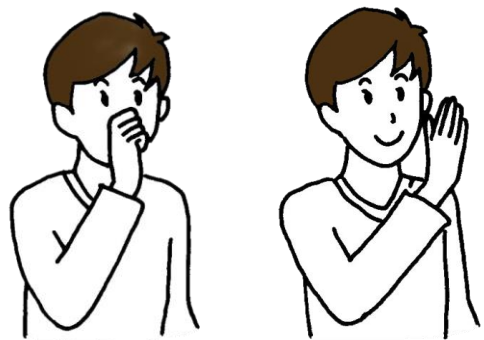
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

1 実施回数

4回

2 対象者

全職員、全校生徒

3 実施者

担当職員、各クラス担任

4 実施内容

週一回朝の打ち合わせにて、手話担当の職員が全職員に対し手話を紹介した。HR にて、クラス担任がその手話を生徒に紹介し、生徒も実際にその手話を使用した。紹介した手話は次の8つである。

①おはよう ②こんにちは ③さようなら ④ありがとう ⑤お疲れ様 ⑥ごめんなさい ⑦お願いします ⑧大丈夫ですか？



朝の打合せでの手話ミニ研修の様子

5 生徒の感想等

- ・去年覚えた手話の振り返りになった。
- ・ふとした時に友達と使えた。
- ・覚えても定期的に使わないと忘れてしまうと思った。

6 成果・課題

職員が確実に手話を覚え、生徒に指導するために週一回の提示以外にも掲示板などで手話について宣伝をしたり、提示日に前回の手話を振り返ったりするなど手話を周知させる工夫をした。日常で使える手話を提示したため、生徒も職員も覚えやすかったようである。

手話強化月間以外でも生徒が手話を使う機会を設け、手話をもっと身近なものにしていくことが手話認知の課題である。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

R6. 10 月：職員対象手話講習会を行い（今年度新着任の職員＋1 学年職員＋希望する職員が参加）、社会福祉部の生徒が講師となって、手話を用いて校歌を歌う。

R7. 2 月：「総合的な探究の時間」の中で1，2 年合同発表会を行い、校歌の手話を発表する。

1 実施回数

1 回

2 対象者

1 年～3 年の生徒（希望者）

3 実施者

本郷真由美（英語科総括教諭）

4 実施内容

5 月 24 日（金）15:50～16:50 P C 教室において、昨年度に引き続き、今年も希望者対象に、手話講座「手話で話してみよう！」を実施した。

全員が手話を学ぶのは初めての生徒たちで、3 年生 5 名、2 年生 1 名、1 年生 1 名が参加した。

手話の 50 音である指文字を学び、互いに自己紹介の練習をしたが、手話について積極的に質問をするなど、大変熱心に取り組んでいた。テキストの例をどんどん覚えてペアワークができるほどの上達ぶりであった。

5 生徒の感想等

- ・1・2 年生は、手話に興味を持って講座に参加したとのことだった。
- ・3 年生は、参加の理由として医療従事者や幼児教育を志望しているという生徒が多くみられた。

6 成果・課題

手話講座と朝の職員打ち合わせでの「一言手話」は、生徒・教員ともに手話理解の意識を高め、興味関心を広げている。手話講座については、体育祭の時期と重なり、放課後の講座参加申し込みを躊躇する生徒がいたのが残念で、ホームルームでも学ぶ機会があればよかった。



「ありがとう」を練習する生徒たち

1 実施回数

7回

2 対象者

1学年全生徒

3 実施者

平坂まゆみ（家庭科教諭）

4 実施内容

県が神奈川県手話言語条例に基づいたリーフレットを発行した際にコラボレーションした映画「聲の形」を視聴した。手話のみならず、現代の家庭の多様性や学校生活について考え、考察を深めていく。

5 生徒の感想等

- ・この物語は、一見いじめなどが目につくが、本当に伝えたいことは、「人とかかわりの難しさやコミュニケーションをとることの難しさ」だと思った。他者を理解し、相手をしっかりとみていくことは登場人物も難しい雰囲気があったので自分も少しずつでもそうしたい。物語で登場人物の多くに合った×（認知していない人物につく）は、主人公石田目線で見た人の顔の表現で発想がすごいと思った。また、×はその人を理解しようとし、その人を見ようとしたときに剥がれるのかなと思った。
- ・「聲の形」という映画は感動系でも恋愛系でもなく、人間の怖さ、リアルさをいろいろな方向から描いている作品であると思った。過去の罪は消せないし、すべて返ってくる。また、それに押しつぶされそうだった主人公が「生きる手伝いをしてほしい」と西宮に言い放ったのは、生きていくことから逃げず、罪を一生かけて償わせてほしいという意味が込められているのかもしれない。手話を題材に、生きることを考えさせられた。
- ・「聲の形」の意味は聴覚障がい者の聞こえる声（健常者の話す声）＋聴覚障がい者の話す声（健常者の聞こえる声）のここのように感じた。そして人の個性を見つめる大切さが必要だと思い、×（認知していない人物につく）にもつながっているのでは？と思う。僕は石田の「声を聴き、見ようとする姿勢」が、自分が避けていたものに対して逃げずに向き合う姿勢が大切だと学びになった。

6 成果・課題

映画の上映時間が長いため、内容を一部削除せざるを得なかった。
手話だけではなく、多様性や他者理解について、考察を得る機会になった。

1 実施回数

1 回（1 時間）

2 対象者

定時制4 学年電気科生徒（2 名）＋ 管理職（校長、副校長、教頭）

3 実施者

加藤悠（電気科実習指導員）

4 実施内容

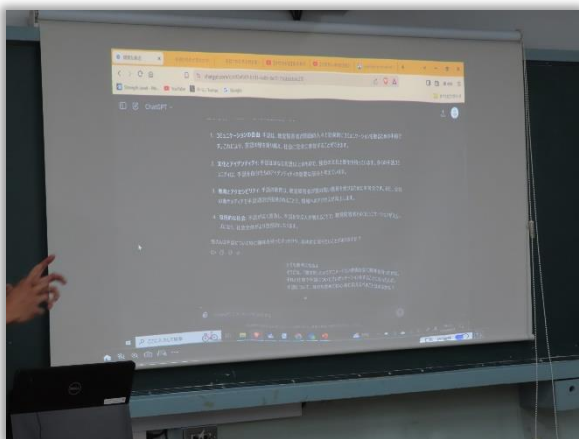
- ・ ChatGPT を用いて手話の概要を伝える。
- ・ 50 音の指文字を用いた表現や、単語としての表現、日常で扱える多種多様な表現の一部を伝える。
- ・ いくつか手話の例を手話紹介サイトを用いてスクリーンに投影しながら生徒、校長、副校長、教頭と一緒に試してみる。
- ・ 興味関心をひくため、手話をテーマに扱った映像作品を紹介。

5 生徒の感想等

- ・ 国によって手話が違うことが知れて良かった。
- ・ 手話の中にもいろんな表現方法があるが、手話紹介サイトでの説明で分かりやすかった。
- ・ 加藤先生が手話を一番楽しんでいた。

6 成果・課題

- ・ 手話に興味を持ち、意欲的に学べるような素材を提供することができた。
- ・ 一部の生徒、教員だけではなく、全校として取り組みを継続していく活動が必要。



ChatGPT に
「手話について君の意見を聞かせてくれないか？」
と聞いた時の回答



手話紹介サイトを参考に「自己紹介」のやり方を実演

1 実施回数

2週間

2 対象者

全生徒

3 実施者

教科担当

4 実施内容

- ・授業の最初と最後に、教員が「始めます」「終わります」の手話をする。
- ・図書室に手話に関する本を展示する。
- ・「始めます」「終わります」の手話のイラストを廊下や教卓に掲示する。

5 生徒の感想等

- ・授業の始めと終わりに先生が手話をやっていたので、楽しい雰囲気です授業を始めることができました。
- ・もっといろいろな手話を覚えたいと思った。
- ・毎時間見ているうちに覚えてしまったので、一緒に使ってみたいと思った。
- ・手話をやる先生とやらない先生がいたので、全員の先生にやってほしかった。

6 成果・課題

教員が覚える手話は2つだったので、実施する教科担当の負担はそれほど大きくなかった。生徒が、毎時間繰り返し手話を見ることで手話を身近に感じ、後半は覚えた手話を生徒と一緒にやっている場面も見られた。

今後は、昨年行った「ありがとう」の手話を使うなど、教員の手話だけでなく生徒と簡単なキャッチボールができるような取組を行っていきたい。

1 実施回数

年2回（4月、9月）

2 対象者

3年「社会福祉基礎」選択者

3 実施者

秦野市聴覚障害者協会から派遣される手話講師及び秦野市から紹介された手話通訳

- ・手話講師 梅津葉子 氏、原佐登美 氏
- ・手話通訳 石川美紀 氏、眞館光江 氏

4 実施内容

- 聴覚障がい者の日常生活における困りや工夫などについて学ぶ。
- 手話はジェスチャーではなく「言語」であることを学ぶ。
- 手話についての演習を行い、生徒一人ひとりが手話で自己紹介などを行う。

5 生徒の感想等

- 手話を学ぶ前は難しいのかなと思っていたけれど成り立ちと一緒に学ぶと楽しみながら覚えることができて楽しかったです。今後聴覚障がいの方とコミュニケーションをとる時は目を見て相手の気持ちを考えながら話すようにしたいです。その時、笑顔で相手に気持ちを伝えようと工夫しながら話すことが大切だなと思いました。

6 成果・課題

- 秦野市聴覚障害者協会及び秦野市障害福祉課と連携して、事業を実施することができた。また、当事者から直接手話等を学ぶことにより、生徒の聴覚障がい者や手話に対する理解を深めることができた。
- 取組の成果を、学校全体に共有する必要がある。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

- 4月：3年「社会福祉基礎」手話講座
- 6月：1年「総合的な探究の時間・福祉実習Ⅰ」手話講座
- 9月：3年「社会福祉基礎」手話講座
- 10月：1年「総合的な探究の時間・福祉実習Ⅱ」手話講座
- 11月：2年「総合的な探究の時間・福祉実習」手話講座

1 実施回数

1 回 （それ以降も手話に関する情報を探している生徒に随時対応している。）

2 対象者

1 学年 全員

3 実施者

須原啓（学校司書）

4 実施内容

図書室のオリエンテーション授業で手話のコーナー設置についての連絡および読書の案内呼びかけをした。生徒はしっかり話を聴き、興味深くコーナーへ行き本を手にとっている様子であった。以降も図書室ではインターネットホームページからの図書室の手話についての案内もあり、生徒がすぐに学校図書コーナーで探せるように配慮をしている。

5 生徒の感想等

オリエンテーション以降、各クラス複数の生徒が興味深く手話のコーナーへ行き、関心を持って本を手にしていった。

6 成果・課題

朝の打ち合わせでは管理職が手話で朝の挨拶を行い、HR でも 5 月の手話月間の呼びかけを行うことができた。周知については未だ浸透には至っていないように思える。手話がさらに身近なものになってゆけるように今後も働きかけを行いたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

年間を通して司書の協力により図書室にコーナーが設置され、全生徒にも紹介している。

6 月には 2 学年キャリア B 選択生徒に手話歌「ふるさと」を実演、紹介した。音楽選択生徒にも今後授業時に紹介、実演の予定である。

11 月には例年行っている手話講座を LHR 時に 1 年生対象に行い手話の会話などの紹介と練習を行う予定である。



1 実施回数

1 回

2 対象者

コミュニケーション技術選択者（2年）

3 実施者

手話講師、手話通訳士

4 実施内容

綾瀬視聴覚障害者協会の方を3名招き、クラスを3グループに分けて交流を図る。これまで学習してきた手話を活用し、ろう者の方々と会話をする。



5 生徒の感想等

耳が聞こえない人と手話で会話する機会は初めてで、はじめは伝わるかどうか少し不安に思っていたけど、これまで学んだことを使ってしっかり伝えることができた。会話の視野が広がった気がして嬉しいなと思った。今回学んだこと以外にも手話はたくさんあると思うから、他にもいろんな手話を身につけたいと思った。

6 成果・課題

これまでの学習が、今回の交流を通して活かされたことに達成感を感じた生徒が多かった。交流会を1回しか実施できないので、交流機会を増やすことが課題。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

7月：職員対象手話講習会

（本校勤務の手話講師から聴覚障がい者の生活や簡単な手話についての講習）

1 実施回数

1回

2 対象者

保健福祉委員会 1 学年生徒

3 実施者

細川晴菜（養護教諭）

4 実施内容

文化祭で保健福祉委員会は事業所の方々が作るお菓子販売をしている。出店場所に装飾として、1年生の保健福祉委員に依頼し、手話ポスターを掲示した。

手話の内容は、

「こんにちは 保健 福祉 委員会 です。 文化祭 ようこそ。 美味しい お菓子 販売。 皆さん お土産に どうですか？ 楽しい 時間 過ごす ～してください。ありがとうございました。」の文章から、1人ずつ言葉を選び、選んだ言葉の手話を自分で調べてポスターを描いた。色やデザインは指定せず、自由な作品にした。

5 生徒の感想等

イラストを描くことを苦手を感じる生徒もいたが、それぞれ個性あるイラストを一生懸命描いてくれた。手の動きをイラストにすることが難しかったという生徒もいたが、誰が見ても分かるように描き方や配色等、工夫して描かれていた。

6 成果・課題

成果：文化祭準備や当日当番の他学年の生徒が1年生のイラストを見て、実際に手話をしている姿や興味をもって見ている姿が良かった。手話について興味をもち、知るきっかけとなった。

課題：イラストだけでなく、実際に生徒が手話を来場者に実践する機会をつくっても良かったと思った。



文化祭で壁に貼られた手話ポスター

1 実施回数

1回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

生徒会役員

4 実施内容

全校生徒対象の生徒総会において、Google スライドを用いて生徒会本部の生徒によるデモンストレーションとレクチャーを20分程度行った。

日常生活における簡単なあいさつや聴覚障がい者との対応をやり取りする手話、指文字を用いた自己紹介を行った。それ以外にも、聴覚障がい者が必要とする案内（標識やマーク）をいくつか提示、説明した。

**5 生徒の感想等**

- ・思ったよりもスムーズに進行できた。
- ・手話を学習するのが難しそうだったが、手話それぞれに意味合いがあって、意外に覚えやすかった。
- ・指文字での自己紹介も比較的簡単にできた。
- ・聴覚障がい者が必要とする案内（マーク・標識）に関して学べて、新しい理解や知識につながった。
- ・最低限の手話（挨拶や自己紹介）が分かっていたら、耳の不自由な方とのやり取りができるから、覚えておいて、何かあったときには寄り添いたい。
- ・「一緒にやってみましょう～」のようにもっと生徒を巻き込んで進められると良かった。次は生徒みんなで手話をやってみたい。
- ・発表のまとめを考えたり、耳の不自由な方のことを調べていると、普段は感じることもない意外な苦労があることが分かった。そういった方々への接し方や配慮を知ることができた。

6 成果・課題

生徒の振り返りにもあるように、生徒から生徒への働きかけは十分にできたが、一方通行のやり取りになってしまっていたので、相互にやり取りしたり、手話に関する問題を出したりと、手話に関する興味や関心をさらに広げることが必要だと感じた。ただ、実施生徒は十分な準備と程よい緊張感で、立派に発表することができた。

課題としては、今後もこのような取組をコンスタントにやっていき、手話や耳の不自由な方への配慮や気遣いが身近なものになるように、工夫をしてきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

前期期間：教職員が自作・自演して作成した手話の動画を、校内に設置されているインフォメーションモニターに流している。

1 実施回数

複数回、LHRで作成動画の視聴

2 対象者

全生徒

3 実施者

生徒会役員

4 実施内容

生徒の手話に対する意識向上を目的として、手話による演劇を制作。台本作りから始め、演技、録画し、各学年のクラスルームに配信した。生徒会役員は夏休みを利用し撮影、編集した動画を作成したことを夏休み後のLHRで放送によって告知した。

併せて生徒会役員が動画を作成するに至った経緯や、作成して感じたこと、生徒に伝えたいことを放送で全校生徒に伝えた。

また、教室に神奈川県手話普及推進計画に基づき作成された手話学習用冊子より手話表現の紹介のページをクラス掲示し、生徒が手話に触れる機会を設けた。



放送する生徒会役員



放送を聞く生徒たち



「手話表現の紹介」教室掲示

5 生徒の感想等

生徒たちは真剣に生徒会役員の放送を聞き、各々で動画を視聴していた。生徒会役員にとっては、動画を作成することが手話を学ぶ機会になりとても有意義な活動になった。

6 成果・課題

生徒会役員が積極的に手話についての取り組み方を考え、実行に移してくれたのは大きな成果であった。本取組を次年度に継続させることが生徒たちの手話に対する意識を高めることに繋がると思う。

1 実施回数

5月20日～5月24日までの一週間

2 対象者

全校生徒及び職員

3 実施者

ボランティア委員会、ボランティア委員担当教諭、活動支援グループリーダー、教頭

4 実施内容

朝の HR で、ボランティア委員が 1 日に 1 つ、簡単な手話をレクチャーする。

(月)「おはようございます」(火)「こんにちは」
(水)「こんばんは」(木)「ありがとうございます」
(金)「よろしくお願いします」

その日に行う手話を教頭が朝の打合せで職員にレクチャーすることで、担任・副担任も主体的に生徒の取組に関わることができる。

5 生徒の感想等

- ・今回学んだ手話を使用して、簡単なコミュニケーションができると思いました。
- ・今まで手話に触れたことがなかったので、いい経験になりました。
- ・手話に興味があったので、クラスのみんなにレクチャーできて良かったです。

**6 成果・課題**

教員主導ではなく、ボランティア委員主導で展開したので、生徒たちがより主体的に取り組むことができていた。各クラスの担任からも、生徒たちの積極的に取り組む様子が、朝の SHR 後に職員室で共有されていた。今回の取組が一過性のものにならないように、継続してボランティア委員の活動としていきたい。

1 実施回数

1 回

2 対象者

定時制全生徒

3 実施者

生徒会役員

4 実施内容

前期生徒総会の自己紹介において、手話を活用した。

5 生徒の感想等

- ・調べれば調べるほど色々な手話が出てきて面白かった。
- ・今まで手話の経験がなくて、最初はよく分からなかったけど、自己紹介を手話で出来るようになったことで、少しでも手話を使っている人と自己紹介が出来る能力を身につけられてると思うと嬉しいしやる気が出て楽しかったです。
- ・私の友達が先天性難聴で、昔から手話を使っていたので前から身近に感じてはいたけれど、使ったことは少ししか無かったのでいい機会だと思った。発表本番の日には行けなかったけれど、これを機に手話を勉強してみたいと思えた。
- ・手話自体はとても面白く、表現の仕方などちゃんと知る機会として良いと思いました。でも生徒総会でやる必要性を感じませんでした。ステージ上と床では絶妙に距離があるので手話をやるとしてもあまり見えない気がします。手話は楽しかったです。

6 成果・課題

成果：多くの生徒が手話に興味を持つきっかけとなった。

課題：簡単な手話しか活用できていない。継続的な活用が難しい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

11 月：後期生徒総会の自己紹介で手話を活用する予定



1 実施回数

1 週間（5月13日～5月17日）

2 対象者

全校生徒と教員

3 実施者

各クラスの福祉委員

4 実施内容

5月のある1週間を「西湘☆手話ウィーク」と称して、月～金まで毎日簡単な手話を学ぶ。
内容：～よろしくお願いします。ありがとうございます。おはようございます。こんにちは。
こんばんは。どうしましたか？大丈夫ですか？嬉しい。楽しい。悲しい。怒っています。
あなたが好きです。愛しています。みんなつながってるよ！～
今年度は上記の言葉を、各クラスの福祉委員が前に出て、クラスみんなにレクチャーした。
授業の開始時と終了時に、先生に手話で挨拶をした。
手話ウィークの説明プリントを全校生徒と全教員へ配布した。

5 生徒の感想等

【福祉委員の感想の抜粋】

- ・手話を自分からみんなに教えるために、覚えて実際に使うことでいざという時の練習になって良かったと思った。
- ・1週間の中でクラスに手話の存在と必要性を伝えることができた。質問やそれに対する応答などの日常的に使える手話が増えたら良いと思った。
- ・クラスの親交が深まっていなくて、前に立って手話を教えるのはしんどいと思いました。なのでもう少し時間をおいてからの方が良いと思います。

6 成果・課題

- 1) まず福祉委員の25名に、手話への関心と意味が少なからず伝わる。彼らにも良い経験になると思いたい。
- 2) 全校で取り組むことにより、手話を学ぶことへの抵抗が減り、むしろ年々積極的に取り組んでくれる生徒が増えたと感じる。
- 3) 課題は、クラスがもっと馴染んだ時期の方がやりやすいだろうと感じている。そして他に面白く学べる取組がないか、他校の取組を参考にしたい。



1 実施回数

3回 4月17日 6月3日 7月3日

2 対象者

福祉委員会

3 実施者

福祉委員会顧問 ・ 教頭

4 実施内容

ボッチャの審判講習会などの委員会活動の際、教頭をはじめ、職員が生徒の関心を高められるよう手話に興味のある生徒が学ぶ機会を設けた。

また、図書館の手話書籍の整備や学ぶ場所の増設などに努めた。

5 生徒の感想等

少ない回数ではあったが、福祉に関する意識を高め、将来に生かすことができる能力を身につけるきっかけを得ることができた。1年生なので、これからも手話講座などに参加して、社会に貢献していきたい。

6 成果・課題

福祉施設との協働や社会福祉協議会との活動など、福祉委員会の生徒に対する期待が拡大している。

現在の活動が高齢者から未就学児、学習、スポーツ、食事などの多岐にわたるため、意欲のある生徒、能力のある生徒に活躍の機会を与えていきたい。

ボッチャ審判講習会の様子



2段目がパラスポーツや手話に関する書籍等を紹介するコーナーです。



図書館・紹介コーナー

1 実施回数

3回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

社会福祉委員

4 実施内容

- ①4月 社会福祉委員会にて、手話月間の説明 「手話に関する取組事例集」をプリントし、委員会にて生徒・職員が例を実施、社会福祉委員が学ぶ。
- ②5月 社会福祉委員会にて、手話月間ポスターの例を配付、作成を指示。
- ③5月下旬から 社会福祉委員が各クラスに作成したポスターを掲示。また、朝の SHR にて、社会福祉委員が手話での朝の挨拶を実施。職員によっては、担当のクラスにて授業の始まりと終わりの挨拶を手話で行った。
- ④5月下旬から 社会福祉委員が各クラスにて「手話パフォーマンス甲子園」の内容を説明し、募集した。

5 生徒の感想等**【1年】**

- ①ポスター作成と HR で手話の挨拶をしてみて、上手く伝えるのが難しいこともあったけど手話についてクラス全体で楽しく行うことができてよかった。
- ②今回ポスターを作ったり手話で話したりしてみて手話も一つの言語であり、すごく美しいものだと感じました。耳の聞こえない人だけでなく、耳の聞こえる人でも手話で会話ができるといいと思いました。
- ③3日間、朝の HR と帰りの HR で手話を行ったことで、クラスのみんなにとって手話が身近なものに感じられたのかなと思います。みんな手話での挨拶を積極的にしてくれて嬉しかったです！
- ④ポスターなどを掲示するだけでなく、HR で手話を実践してみることで、より手話を身近なものとして感じる事ができ、良い普及活動を行うことができたと思いました。
- ⑤今回の活動でポスターの作成、手話での挨拶をしてみて、みんなが楽しそうに挨拶などを手話でしてくれたので嬉しかったです。
- ⑥手話活動を通して手話をやることの大変さや楽しさ、やりがいなどを感じることができました。

【2年】

- ⑦手話のポスター制作や手話での挨拶をするときに、どんな動作をしているか、見ている側が分かりやすいように表現するのが大変でした。
- ⑧手話をやってみている人がいて嬉しかったが、少しだけだったのでさらに増えるように頑張りたい。

【3年】

- ⑨今回のポスター作成や手話を使った挨拶を行ってみて、手や体を使って思いを伝えるのは言葉で伝えるのと同様に大切な事だと実感しました。
- ⑩今回の活動を通してより多くの人に手話について知ってもらえることができたと思いました。来年以降もこのような活動を通して誰もが暮らしやすい社会にするために、社会福祉委員が率先し何かできたらいいなと思いました。

6 成果・課題

成果：

生徒・職員にとって、手話に積極的に触れる機会となった。クラス委員の生徒も手話ポスターを作成し、クラスごとに手話の挨拶やポスターの掲示を行った。ICTを活用し校内での実施を動画を撮って報告をしたクラスがあった。昨年同様に Google Classroom で、手話月間実施状況の報告（写真・感想）をさせた。昨年度よりも報告数は多くなり、活動の成果を残せたと感じている。

課題：

手話の取組をすすめたが、取組強化月間を終えると手話を使う機会が少ないため、普及をするには継続した取組が必要と感じた。作成・掲示した手話ポスターを教室や廊下で掲示にすることで、手話に触れる機会が多くなるので、年間掲示にすることをしていきたいと考えている。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

年間：手話ポスターの掲示



1 実施回数

4回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

生徒会役員

4 実施内容

実施する前週5月1日のHRで、各担任から手話による「おはようございます」を紹介してもらい、挨拶運動の告知をしてもらった。その翌週7～10日の朝、登校する生徒に手話を伴う挨拶運動を行った。

本校はグローバル教育推進校であり、4つの第二外国語を選択教科として教えていることから、日本語・英語を加え、6か国語の挨拶と手話を披露した。図書室でも手話の関連本コーナーを作って、手話に対する関心の喚起を図った。

5 生徒の感想等

手話は言語によって異なるだけでなく、同じ言語でも国によって異なることを知った。それは文化背景によって、同じ内容でも表現方法が異なるということなので、物事の受け取り方には相手への配慮が必要なのだったと思った。

6 成果・課題

多言語の手話を通して多様性を学ぶ機会が得られた。これも他者に対する思いやりを学ぶ1つの方法であると思った。また、「外国の手話」という別な切り口から、手話について興味を持つこともあるかもしれない、と期待している。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

生徒会で挨拶運動を行う折に手話も取り入れる。

1 実施回数

各学年 1 回

2 対象者

1～3 年 HR クラス

3 実施者

手話部生徒

4 実施内容

5 月 28・29・30 日の各学年の朝の SHR に手話部の生徒が訪問し、手話講座を実施。
挨拶や、学校で使える手話を教えて、一緒に手話体験を行う。

5 生徒の感想等

- ・簡単な手話だったが、覚えやすくて使ってみたいと思った。
- ・手話の表現の意味を知ることによって覚えやすくなり、難しく考えずに使ってみようと思った。
- ・同学年のクラスの生徒の前で手話をするのに恥ずかしさがあったが、みんなと一緒にやってくれて嬉しかった。

**6 成果・課題**

今年度も、手話部生徒による職員向けの手話講座を実施し、授業前などに手話での挨拶を実施するよう呼びかけた。

その後生徒向けの手話講座を行った。この2つの取組は、手話部の生徒からの発案であり、昨年度の職員向けの講座を発展させ、学校全体で手話を学ぼうとする意識が高まっている。今後、他の機会でも手話の理解が深まるよう取り組んでいく。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

4月(入学式)：

手話部とコーラス部の生徒による、校歌披露を実施した。校歌に手話表現をつけ、校歌、手話ともに新入生に興味を持ってもらい、福祉の意識を高める良い機会となった。

4～5月：

音楽Ⅰの授業内にて、「SING」に手話の表現をつけて歌う取組を実施した。

1 実施回数

5回

2 対象者

本校生徒、湘南台駅利用者の方々

3 実施者

本校ボランティア部

4 実施内容

- ・5月20日 チラシを各クラスに掲示し、手話問題フォームに取り組んでもらう。
- ・5月27日～31日の放課後10分程度、湘南台駅前にて「手話に関する問題、手話に関する動画の二次元コードが記載されたチラシ」の配布を行う。
- ・手話への認知度をフォームの正答率で測り、どのような傾向があるのかをまとめたものを文化祭で発表する。



5 生徒の感想等

手話の動画を作る上で、様々な手話を学習することができた。また、手話の大切さをチラシで地域の方に伝えられたと思うので、その達成感を味わうことができた。

6 成果・課題

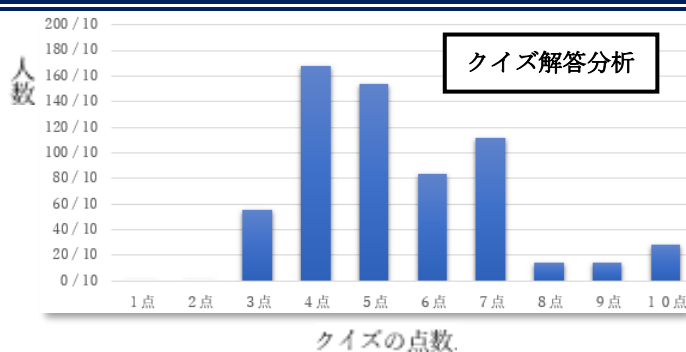
チラシ配布やフォームの結果を周知することで、校内外での手話の大切さの周知ができた。また、駅前地下コンコースを使用する上で、湘南台市民センターを含めた校外組織と連携をすることができたので、地域の中での取組とすることができ、生徒の自己肯定感の向上につながったと感じている。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

湘南台市民センターで行われている湘南台手話サークルなどの校外組織や市民祭りなどの地域のイベントに参加するなどして、本校の教育活動と手話団体との地域連携を強化し、地域に根差した手話学習にしていく。



チラシ配布時の様子



解説動画



クイズ解答中の委員会

1 実施回数

6月3日～6月14日

2 対象者

生徒、教員

3 実施者

生徒、教員

4 実施内容

○授業、HR の始めと終わりの号令にて、「こんにちは」と「ありがとうございました」の手話を、教員と生徒が行う。初日、各クラスの SHR にて、「コミュニケーション技術（手話講座）」を受講している生徒、講師の先生を各クラスに派遣し、実演をして練習を行い、生徒が身近に取り組みやすい環境を醸成した。

○ポスターをイラスト部の部員が、「こんにちは」と「ありがとうございました」の動作をしている生徒の絵を描いて作成し、教室と廊下、階段踊り場に掲示し、啓発させた。

○図書館にて、手話に関する本を集めたコーナーを作成し、図書館を利用する生徒に周知することができ、より詳しく知りたいと考える生徒の一助となった。



5 生徒の感想等

- ・クラスで実演してみせるのは恥ずかしかったが、しっかりと伝えられるよう務めた。（手話講座受講生）
- ・はっきりと動作することが、重要に思った。
- ・楽しく取り組むと、楽しく伝え合いができると思った。

6 成果・課題

- ・中には授業を行うことに集中して、教員が実施するのを忘れてしまうことがあった。
- ・クラスでの実演は所属しているクラスの方が恥ずかしさが増すので、異なる方が取り組みやすい。
- ・ポスターを事前に掲示し、手話講座受講生に実演をしてもらうことで、昨年より普及することができた。



1 実施回数

①計 4 回 ②5 月中

2 対象者

①第 1 学年の生徒全員 ②全校生徒

3 実施者

①各クラスの HR 委員 ②学校司書

4 実施内容

①特別活動における取組：

HR 委員がリーフレットをもとに日替わりで手話を紹介し、クラスの生徒全員がそれに倣って実践した。

②その他の取組：

図書館に手話に関する本のコーナーを設け、手話を紹介した。



5 生徒の感想等

- ・普段あまり触れる機会のない手話を実践することで、身近に感じだし、楽しかった。
- ・クラスのみんながレクチャーをきちんと聞いて実践してくれて良かった。

6 成果・課題

手話を実践するよい機会となると同時に、表現方法における多様性について改めて考えることができた。



1 実施回数

①1回 ②取組強化月間中

2 対象者

全生徒

3 実施者

①生徒会指導グループ ②田原菜々子（学校司書）

4 実施内容

①特別活動における取組：

毎年5月に発行している「手話通信」の令和6年度版を生徒会指導グループで作成し、各クラスのClassroomに掲載した。

②その他の取組：

取組強化月間中、校内の図書館において手話に関する資料を展示した。手話通信で特集コーナーの宣伝を行った。

5 生徒の感想等

- ・手話通信で紹介された『聲の形』に興味を持ち、図書館まで借りに来た生徒がいた。
- ・図書館で展示された手話に関する本を手に取り、友人同士で手話を試す生徒の姿が見られた。



6 成果・課題

図書館の特集コーナー前で足を止め、本を眺める生徒が多く見られた。過去に県から配布された手話のパンフレットも本と併せて展示し、興味を持った生徒に多くの情報を提供することができた。

1 実施回数

3回

2 対象者

全職員、全生徒

3 実施者

生徒会役員 常任委員会

4 実施内容

本校では、生徒によるあいさつ運動を、年に複数回行っている。この、あいさつ運動を手話にて行う取り組みを、生徒会役員生徒による実施日と常任委員会による実施日の2日にわたって設定し行った。

また、あいさつ運動に先だって職員会議、生徒会役員会議、常任委員会会議のなかで、手話での簡単な挨拶などについて周知し、教職員・生徒のどちらもが手話によるあいさつ運動ができるよう計画的に取り組んだ。

5 生徒の感想等

手話での表現がジェスチャーのようで、興味が持てた。「おはよう」の手話の意味がしっかりわかった。ほかのあいさつはどんな手話なのか知りたくなった。

6 成果・課題

昨年に引き続き、手話でのあいさつ運動を実施した。昨年の経験のある生徒は、手話でのあいさつに気づき、手話で「おはよう」を返してくれていた。昨年度の経験が浸透していることが成果の一つではないかといえる。課題点は、手話に興味をもっている生徒に対しどのような機会に学びを設定するか、検討が必要である。



手話によるあいさつ運動



「おはようございます」を手話で実践

1 実施回数

5月中

2 対象者

①図書館に来館する生徒および職員 ②1年

3 実施者

①藤田真澄（臨時学校司書） ②坂元孝子（体育科教諭）

4 実施内容

- ①手話の取組強化月間に聴覚障がい関係の資料を展示した。また5月中に図書を貸出した利用者に「手話を楽しく学ぼう」パンフレットに掲載の手話で葉を作成し、配付した。
- ②1年生の体育授業の冒頭で、手話で挨拶をし、手話取組強化月間について周知した。

5 生徒の感想等

期間中は、貸出手続の際に葉を付けて渡したので、「これ何？」「5月は神奈川県の手話月間で手話の葉だよ」という会話が多数あった。

6 成果・課題

葉を渡す時には、生徒が知っている手話を教えてくれたり、葉と同じ手話をしてくれたりした。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

4月：新入生への図書館オリエンテーションを学校司書が手話付きで実施。オリエンテーション後に新入生が「手話やってたでしょう！面白そうだったから」と言って手話の図書を借りてくれた。

通年：学校司書が校内で挨拶する際は、常時手話で挨拶をしている。



その他

霧が丘高等学校

1

廊下に本の展示スペース

1 実施回数

1 か月間の展示

2 対象者

全生徒・全職員

3 実施者

原由花（学校司書）、図書委員 ・ 阿部純也（国語科教諭）、福祉委員

4 実施内容

- ・職員室前の廊下に出している出張図書館にて、手話に関連する本の展示を行った。手話を学ぶための本以外にも、聴覚に障がいがある人について知ってもらえるような本も同時に展示した。
- ・図書委員会の生徒に依頼して手話に関するクイズを作成してもらい、本と一緒に展示した。

5 生徒の感想等

- ・図書館から離れた場所での展示ではあったが、置いてある本を借りたいと申し出てくれた生徒がいた。
- ・クイズを作る過程で、元々手話の知識がある生徒がそうではない生徒にアドバイスをするという場面があり、コミュニケーションの中で興味や知識を深めていた。

6 成果・課題

- ・普段図書館に来ない生徒や職員の目に触れる場所に展示することで、館内で行うよりも多くの人にアピールすることができた。
- ・生徒にクイズの作成を依頼することで、図書委員たち自身が手話に興味を持ってくれた。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

通年：各クラスの福祉委員が手話に関するオリジナルのポスターを作成し、廊下に掲示した。



1 実施回数

3回

2 対象者

全生徒・保護者、全職員

3 実施者

成田玲那（養護教諭・生活支援グループ）

4 実施内容

全生徒・保護者、全職員向けに、NHK for School 「手話シャワー」の動画と、「NHK 手話 CG 単語検索サイト」を、5月毎週水曜日、計3回にわたって紹介した。併せて、図書館に「手話月間コーナー」を作り、図書の紹介を行っていることを宣伝した。また、保健室にも手話の本を置き、手話に触れられる機会を増やした。

5 生徒の感想等

今回の活動をきっかけに手話を学びたいという申し出があった。以前、動画配信サイトで手話音楽を見たことから、手話に興味を持ち、簡単な手話、指文字について勉強したため、さらに上級を学びたいとの要望だった。また、同生徒より動画の内容は簡単すぎたとの感想があった。

6 成果・課題

本校では、手話を習得している教職員はいないため、手話について深く学びたいという生徒へは、外部機関を紹介した。学校内で継続的な手話取組活動が行えれば、校内全体で手話に触れる機会が増えると考えられる。



茅ヶ崎北陵高等学校

図書委員製作 POP による「手話」と「手話に関する書籍」の紹介

1 実施回数

令和6年5月1日～令和6年6月28日

2 対象者

全生徒

3 実施者

渡邊弘子（学校司書）

4 実施内容

- ・図書委員製作のPOPで「手話」と「手話に関する書籍」の紹介
- ・図書館内に手話に関する書籍の展示
- ・指文字のプリント展示と配布
- ・「自分の氏名や学校名を指文字で表現してみよう」等の声掛け
- ・廊下に生徒が作成した手話のポスターの展示



図書館の手話コーナー

5 生徒の感想等

- ・かわいいPOPで、手話の本を手にとってみたいと思いましたし、興味を持ちました。
- ・図書委員会で手話の本を展示紹介するということでPOPを書いてみたいと思いました。POPを見て少しでも手話に興味を持ってもらえると嬉しいです。

6 成果・課題

図書委員会の取組で手話に関する書籍を新たに購入した。生徒がPOPを作成し、生徒の目につきやすい場所に展示した。来館した生徒が興味を示し、手に取ってもらえよかった。今後は、学校行事等で手話を使える場を生徒に提供し、手話を学ぶモチベーションをあげていくことが課題である。

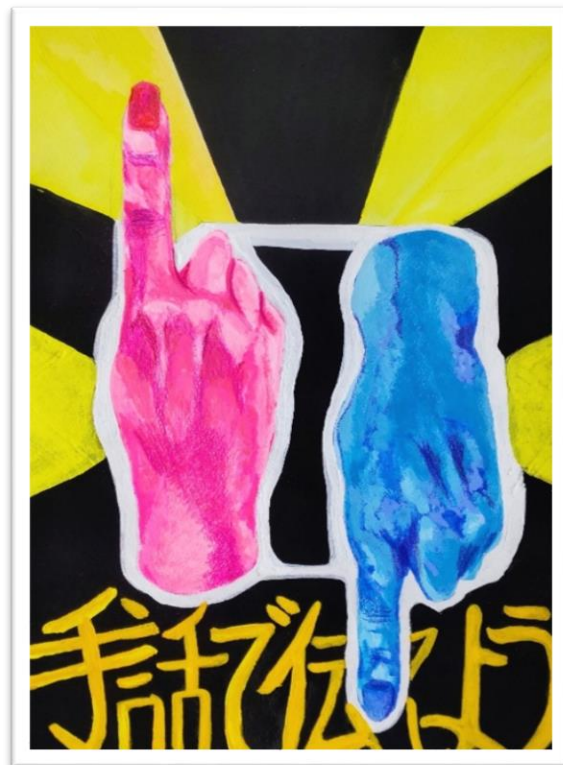
7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

通年：生徒が作成した手話ポスターの校内展示

手話ポスター紹介



横浜立野高等学校
美術部 1年 新貝ありす



横浜立野高等学校
美術部 1年 佐藤真羽



商工高等学校
美術部 2年 高鷹息吹



霧が丘高等学校
福祉委員会 3年 福山結菜



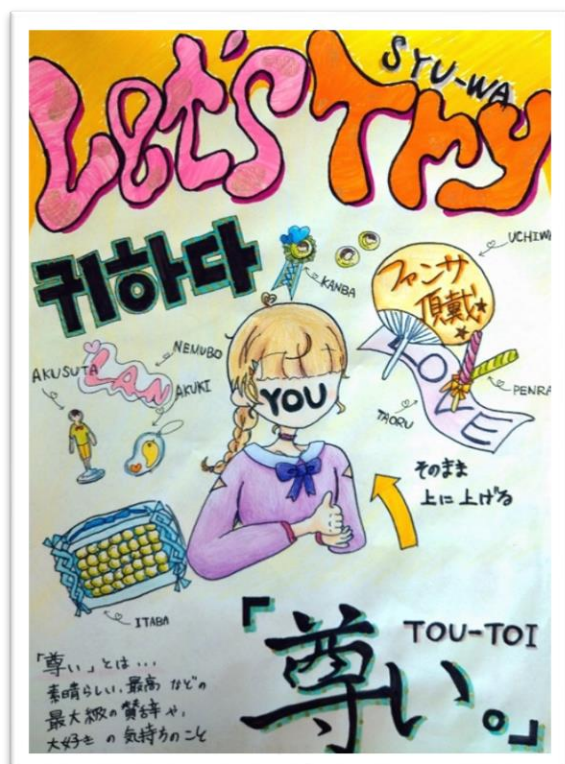
平塚江南高等学校
美術部 1年 井上叶望



平塚江南高等学校
漫画研究部 2年 山本尚子



深沢高等学校



茅ヶ崎北陵高等学校
図書委員会 1年



茅ヶ崎北陵高等学校
図書委員会 1年



茅ヶ崎北陵高等学校
図書委員会 1年



茅ヶ崎北陵高等学校
図書委員会 3年

発 行	令和6年11月8日
編 集 者	神奈川県教育委員会教育局指導部 高校教育課長 渡貫 由季子
発 行 者	神奈川県教育委員会 〒231-8588 横浜市中区日本大通 1 TEL (045) 210-1111 内線8260